

令和2年度 学校評価報告

草加市立西町小学校

(令和3年2月1日作成)

1 学校教育目標	
○よく考え 工夫する子 (知) ○心豊かで 思いやりのある子 (徳) ○たくましく ねばり強い子 (体) <キャッチフレーズ> 「感動いっぱい 夢いっぱい みんな生き生き 輝け西町」	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
「潤いと品格」のある西町小を目指す ○子どもが褒められる学校 ○新しい時代に必要となる資質や能力を育成する学校 ○健康な心と体を育むと共に、体力を向上させる学校 ○自己有用感を基盤に、安心して安全に生活を送ることができる学校 ○地域とともにある学校	成果 ○特別の教科道徳について、大学教授による講演や授業研究会を行い、多面的・多角的な考え方を通して、「考え、議論する道徳」の効果的な指導法を構築することができた。 課題 ●図書館教育について、より効果的な指導法の研究を行い、全校をあげて、本が好きで進んで読書する児童の育成を行う。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	○高学年の一部教科担任制により、学年集団による組織的な体制作りがなされ、適切で効果的な学習指導を行うとともに、学年内児童理解によるきめ細やかな生徒指導を行うことができた。 ○複数での文書確認、外部監査を導入した会計処理により、外部への文書配付や予算執行を適切に行うことができた。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○プログラミング教育における研修を行い、組織を生かした体制づくりと主題に迫った手立てにより、教職員の授業力が向上し、児童一人一人に論理的思考力をつけることができた。 ○教職員の共通理解のもとで感染症対策を取りつつ、最大限の教育効果のある方策を、教科ごとに構築することができた。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○アレルギー対応研修を充実させ、児童の情報を共通理解することで事故ゼロを実現した。 ○火災、地震に加え、竜巻に対する避難訓練を実施し、危機管理の体制を充実させた。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	○個人情報持ち出し簿の活用、施設設備点検とその後の修繕を十分に行い、情報・施設設備の管理を適切に行った。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	○学習活動や給食の様子をホームページで積極的に公開し、学校だよりと合わせて学校の教育活動を広く地域に発信した。 ○学校公開や音楽会等を中止にせざるを得なかったが、体育発表会やオンラインの授業参観などで保護者に教育活動の様子を広く公開した。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	○中学校との乗り入れ授業の実施、入学予定児童についての情報交換など、一貫した教育のための手立てを取った。 ●交流や体験活動などが十分でできなかった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○休校期間を考慮し、教育課程を編制し直すことで、適切な時数確保を行った。 ○保護者評価で学力面88%、徳力面91%、体力面74%の達成評価を得た。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「草加っ子の学びを支える授業の5ヶ条」に基づく授業構築を徹底し、学力向上の成果をあげた。 ●ゲストティーチャーを効果的に活用することができず、学習効果をあげられなかった。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度まで、重点的に行った研修の成果を継承するとともに、「西町小学校道徳ノート」を導入・活用し、発展的に教育効果を高めた。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○担任とALTとの共通理解のもと充実した学習活動を展開することができた。 ●児童同士の交流など、コミュニケーション能力を高めるための活動を十分に行うことができなかった。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を取りつつ、異学年の縦割り活動を継続させ、交流を図ることができた。 ●学級活動を系統的に指導できるようにする必要がある。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の文化活動についての知識や気づきを、表現方法の効果までを考慮して発表活動を行い、成果をあげた。 ●地域人材を生かした学習の展開ができなかった。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会を機能させ、問題行動や教育相談に関する事案に複数で対応し、報告・連絡・相談を徹底するシステムを構築した。 ○いじめ防止基本方針の下、「いじめ防止会議」を実施し、いじめ防止、早期発見、早期対応に向け、共通理解、共通行動をとることができた。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教員による乗り入れ授業等で進学に向けた見通しや希望を抱かせることができた。 ●中学校での進路指導、将来の職業選択を見据えてキャリア教育を充実させる必要がある。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○関係諸機関、特別教育指導員との連携を図るとともに、ユニバーサルデザインの観点を取り入れ、極め細やかな指導を行うことで、個に応じた教育を充実させることができた。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書を有効活用し、各クラスの多読書表彰、図書室の環境整備を行い、より一層図書館教育を推進することができた。 ○貸し出し冊数が、昨年度から1.4倍程度伸びた。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT支援員を有効活用し、教育効果を高めるとともに、児童の学ぶ意欲を高めることができた。 ○プログラミング教育の研究委嘱を受け、体験研修、授業実践、研究発表会を行った。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科で、児童一人一人に人権意識や人権感覚を育むことができた。 ●人権感覚育成プログラムを活用し、校内研修を充実させる必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	1 思考力・判断力・表現力の育成	・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業改善 ・ノート指導の充実	A	○話し合い活動に制限のある中で、各教員が工夫しながら授業改善を行い、成果をあげた。 ○書くことに重点を置き、書いて表現する力が児童に身についた。
	2 自己有用感の育成	・「いじめ早期発見」「不登校ゼロ」 ・幼保小中を一貫した教育の充実	B	○教科担任制で、担任以外が学級に入ることによって児童の変化に気づき、積極的な生徒指導を行うことができた。 ●1・2年の生活科における園児との交流、6年の中学校体験等の機会がなくなり、他者との交流活動の中で、自己有用感を高める機会を失ってしまった。
	3 感染症対策の徹底	・適切な感染症対策 ・教職員の共通理解・共通行動	A	○国・県・市の感染症対策ガイドラインを基に、児童の安心・安全を確保するための対策を取ることができた。 ○職員打合せや臨時の学年主任会を開催し、緊急性の高いものについても、全職員の共通理解・共通行動をとることができた。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 学校教育目標を具現化するため、「潤いと品格のある西町小」を目指す学校像として、組織的に教育活動を推進した。
- 問題行動等に対しては、「報告・連絡・相談」を徹底するとともに、生徒指導主任を中心とした複数による組織対応の仕組みを構築し、機能させた。
- 学校公開の機会が減ってしまったが、学校ホームページを充実させたり、体育発表会やオンラインでの授業参観・懇談会を開催したりするなど、創意工夫しながら、広く地域へ教育活動を発信した。
- 校内研修で、プログラミング教育に関わる実践的な教育計画を作成し、効果的な指導法を構築することにより、児童の論理的思考力を高めることができた。
- 特別の教科道徳について、昨年までの研修の成果を継承するとともに発展させ、「考え、議論する道徳」の効果的な指導法を構築することができた。

6 次年度の改善策

- 感染症拡大防止の観点から、縮小せざるを得なかった幼保・中との交流や学校公開について、教育効果を高めるためにできることを模索し、実践する。
- 人権教育について、その重要性や意義を教職員が再認識し、児童の人権意識や人権感覚を高める方策を取る。